

C O R R E N T E

Centro Culturale Italo-Giapponese di Kyoto

現地語学学校紹介： フィレンツェ

* ISTITUTO EUROPEO 校 *

磯部 素子（同校スタッフ）

イタリアの古都フィレンツェの街並みは何百年もの間、変わらず保存されていて、街を歩くとまるで中世の時代に舞い戻ったような錯覚を覚えます。ISTITUTO EUROPEOは、そんなフィレンツェの街の中心にある大聖堂(ドゥオーモ)の真横に1988年に誕生しました。現代イタリア語の標準語はトスカーナ地方のフィレンツェの方言がもとになっていると言われます。正しいイタリア語が話される町という理由からか、フィレンツェは他の町と比べて語学学校が多いようですが、当校は中でも老舗校の一つとして知られています。

●旧市街の中の新校舎

今年に入り、長年利用していた校舎の老朽化の問題やバリアフリー対応など、設備の改善・充実をはかるため移転を決定、7月より新しいISTITUTO EUROPEOとして生まれ変わりました。新しい校舎はドゥオーモ広場から徒歩10分程、フィレンツェの高級ブティックやカフェが軒を連ねるトルナブオーニ通り沿いに位置し、有名なフェラガモ本店があるサンタ・トリニタ広場に面しています。エレベーター付きの建物の2階全フロアが学校です。校内は大きな窓や白大理石をふんだんに使用した床など白を基調に大変明るく、どの教室も広く快適な作りとなっています。またフィレンツェの旧市街は古い建物が多いため冷房のない建物も珍しくない中、当校は冷暖房完備、インターネット無線LAN接続など近代的な設備も充実しています。インターネット用パソコン(日本語可)が6台設

置された広い生徒専用ラウンジもありますので、休み時間や放課後など自由に利用していただけます。



【ISTITUTO EUROPEOの新校舎】

●語学レッスンと充実した音楽コース

当校のイタリア語グループレッスンは会話と文法の時間に分かれていて、途中30分の休憩をはさみ各1時間30分ずつの授業となります。経験豊かで親切な教師陣が生徒の皆さんのレベルに合わせたきめ細かい指導を行います。コース初日にはレベルチェックの筆記テストと面接を行い、最もふさわしいと思われるクラスに入っていただきます。会話と文法のレベルが異なるという生徒さんもいらっしゃいますが、そういった場合も文法と会話のクラスを別にするなど、できるだけ効率よく学習できるよう考慮させていただきます。テキストは「Espresso」という教科書を使いますが、他にも先生が用意した資料、CD、DVDなど様々な教

材を利用して授業が行われます。

当校の授業の特徴の一つとして、週一回の割合で様々なテーマについてのプレゼンテーションや作文の小テストがあります。これは先生の説明を一方的に聞くだけの受身の授業ではなく、学習したことを「話し言葉」「書き言葉」両方において、すぐに生きた言葉として使えるようになることを目的としています。また先生も各生徒の苦手な点を常に細かく把握することができるため、生徒一人一人に的確なアドバイスをすることができます。



【レッスンの様子】

イタリア語コースは、グループレッスンのほかに「プライベートレッスン」や「コンビネーションコース」などがあります。「コンビネーションコース」は午前グループレッスン、午後プライベートレッスンと集中的にイタリア語を習得したい方には人気のコースで、グループレッスンとプライベートレッスンを別々に申し込まれるより料金も少しお得となりますのでお勧めです。

また、当校の特徴の一つとして他の語学学校と違うところは、「音楽コース」が大変充実していることです。特に声楽家にとってイタリア語の習得は必要不可欠と言われますが、イタリア語と同時に本格的な歌のレッスンを受けられる学校はフィレンツェでは当校だけでしょう。事実、音楽大学生を始め、すでにプロとして活躍しておられる声楽家や音楽家、アマチュア音楽家など、世界中から多くの方が当校の音楽コースを受講しに来られます。中でもイタリアはオペラの本場ということもあり、イタリア・ベルカント唱法を学びに来られる声楽家の生徒さんが多いですが、他にもピアノ、ヴァイオリン、フルート、チェロなどの楽器、また最近ではオペラ歌手の伴奏や指導を行うコレペティ

ウアを目指すピアニストの方も増えてきています。音楽コースはすべて個人レッスンですので、特にこういったことを勉強したいなど生徒さんの希望や目的、レベルなどを考慮しながらレッスンプログラムを決めていきます。レッスンは基本的にイタリア語で行われますが、先生が体を使って発声又は演奏の例を示しながら丁寧に説明をしてくれるのでイタリア語に自信のない方もご安心ください。もちろん何か困ったときには日本人スタッフがお手伝いをさせていただきます。校内にはピアノのある音楽レッスン室が4室あり、レッスンのない時間は音楽コース受講生の練習室として開校時間中は自由に使うことができます。講師は国内外の舞台に立っている現役の音楽家ですが、講師としての経験が豊富で生徒さんからも評判の良い先生を選んでいきます。音楽コースの受講に特に条件はありません。初心者の方、これから歌や楽器を始めてみようと思っている方なども大歓迎です。

当校では、毎日様々な課外活動を企画しています。例えばフィレンツェの名物料理を味わうランチやディナー、フィレンツェに古くから残る伝統工芸の工房見学、イタリア映画鑑賞、また週末はシエナやピサなど近郊の町への遠足、チンクエ・テッレでのハイキングなど盛りだくさんです。



【音楽レッスン室】

生徒のみなさんは、放課後こういった課外活動に参加したり、各自フィレンツェの町を散策したりと思い思いに過ごされています。フィレンツェの旧市街は端から端まで歩いて1時間余りと、どこに行くのも徒歩圏内で大変便利です。「町全体が屋根のない博物館」といわれるぐらい歴史的建築物や彫刻がいたるところに残されていますし、ウ

ツフィーツィ美術館やアカデミア美術館をはじめ、ルネサンス芸術の作品を展示してある美術館が点在していて、美術に興味のある方にとっては飽きることのない町だと思います。中でも生徒さんに人気のある場所の一つが「ミケランジェロ広場」です。アルノ川を渡ってなだらかな丘を登っていったところにあるフィレンツェの町を一望できる大きな広場です。特にここから見る夕焼けがとってもきれいで、滞在中、数え切れないほど行ったという人も多いようです。



【ミケランジェロ広場】

●頼れる住居サービス

さて、次は留学される方にとって、学校選びの次に大切な滞在先の話です。ただでさえ慣れない海外生活なのに、選んだ滞在先の居心地が悪くなると大変なストレスとなり、勉強どころではなくなってしまいます。当校が生徒の皆さんにご紹介している滞在先の主な種類として、1)ホームステイ 2)学生アパート 3)個人アパートがあります。ホームステイは、イタリアの生活習慣を学び、日常生活の中で生きたイタリア語を学べるというメリットがあります。また、当校でご紹介するホームステイの食事は大変おいしいと好評ですが、毎日夕食でイタリアの家庭料理を味わうことができます。ただ日本とは文化や風習の異なる人達と生活するわけですから、相手の習慣や考え方を受け入れる必要があります。また、ほとんどのホームステイ先ではキッチンを使うことが出来ませんので、自炊したい人には不向きです。学生アパートは、1つのアパートメントを、他の学生やアパート所有

者とシェアして住む滞在形式で、通常キッチンやバスルームは同居人と共有になります。自炊しながら自分のペースで生活したい人にお勧めです。最後に個人アパートですが、プライベートを絶対に確保したい方、または家族や友人と一緒に住みたいという方のための滞在形式で、日本で言うワンルームや1LDKといったようなアパートです。家具、リネン類や食器も揃っています。当校のご紹介する滞在先は通常徒歩で通学可能なところを選んでいきます。またスタッフが実際に見て問題がないかチェックをしていますし、どの大家さんとも長年の付き合いで気心の知れた方ばかりですのでご安心ください。ただし、特にホームステイなど人によって合う、合わないなど出てくる場合もありますが、無理してそこに住み続けなければいけないということは絶対にありませんので、そういった場合は事務局にご相談いただければ他の場所をお探しすることも可能です。また長期留学の場合、初めの1~2ヶ月ぐらいホームステイをして現地の生活に慣れ、その後学生アパートに移るというのも一つの方法だと思います。



【無線 LAN 完備の生徒専用ラウンジ】

ISTITUTO EUROPEO事務局には日本人スタッフが常勤していますので、学習面はもちろんのこと、生活面での不安やちょっとした疑問などなんでもご相談ください。みなさんとお会いできる日をスタッフ一同楽しみにしています！

(ISTITUTO EUROPEO スタッフ)

パドヴァ通信

第12回『アーズロ』 “La Città delle Regine”

深草 真由子

イタリアの地図を広げてみよう。ポー川流域に広がる平野部、特にミラノ、ヴェネツィア、ボローニャを結ぶ幹線沿いには中世、ルネサンス期に繁栄し、今も当時の面影を残す美しい都市が点在している。ヴェローナやフェッラーラ、パルマ、そしてクレモーナにマントヴァなどはアクセスも比較的良いので、州都の町を拠点にしながら日帰り訪れる旅行客も多い。ではどうしても行ってみたい場所に、鉄道が走っていない場合はどうしたら良いのだろうか？自動車免許もなく、連れて行ってくれる人もおらず、タクシー代も惜しいなら、バスに乗るしかない。残念ながらバスという交通機関は、比較的便利と思われるここヴェネト州においても、主要な役割は通学、通勤のための足であり、一部の路線を除いて土日祝日にはめっきり便数が減る。この不便さに加えて「ここに住んでいけばいつでも行ける」という考えから、本来インドア派の私の足はますますバス旅行から遠ざかってしまう。前もって時刻表を調べ、行こうと決心して往復分の切符を買い、やっと「さあ行くぞ」という気分になれるのだ。パドヴァを拠点にしてバス旅行をするならば、目的地として例えばアルクア・ペトラルカがある。パドヴァの南西に広がるエウガネイ丘陵に位置するこの村は、その名前からも分かるように、十四世紀の桂冠詩人ペトラルカが暮らした村である。平日はバスでアクセスすることも可能だが、それでもやはり自動車がベストだろう。

バスを三本も乗り継がなくてはならないような所に行くには、平日、朝早く出発するしかない。バス

であれ列車であれ、イタリアで三回も乗り換えをしなくてはならないとなると、私の旅行気分はかなり曇ってしまう。本当に時刻表通りにバスが来るのだろうか、帰りの便が無くなったらどうしようか、などと頭の中では心配しながらも、それでもどうしても行きたかった小さな町、それはトレヴィーゾとバスサーノのほぼ中間に位置するアーズロである。

パドヴァを出発して、画家ジョルジョーネの故郷であるカステルフランコ・ヴェネトからさらに北に向かう。そしてアーズロに到着すると、さらに別の小型バスに乗り、丘の上のチェントロまで上る。「丘の上の町」はイタリアに数あるとはいえ、堂々とそびえる建造物が訪れる者を圧倒するトスカーナやアッジジなどの中部イタリアの町とは少し異なる趣がこのアーズロにはある。バスの窓から小山の上のチェントロを見上げると、その城塞や家々の温かい茶色が、山の斜面に生える木々や麓の畑の自然となじんだ、穏やかな光景が目心地よい。



【アーズロの町の中心 Piazza Garibaldi】

現在のアーズロが観光客を惹きつける理由の一つに、数多くの著名人にこの町が愛されたということがある。ヘミングウェイやロバート・ブラウニング、カルドウッチらがそうだが、ここではアーズロに所縁のある三人の女性を紹介したい。まず、一人目はイギリス人探検家のフレイヤ・スタルク。

イタリア発月刊日本語新聞

COMeVA
Pubblicazione mensile distribuita in Italia e in Giappone

イタリア在住日本人と日本人観光客のための情報誌

編集・発行 NIPPON CLUB SNC
Via Torino, 95 - 00184 Roma, Italy
Tel. & Fax : (06) 4743.212
E-mail : comeva@nipponclub.it
URL : www.nipponclub.it

お問い合わせ等はNIPPON CLUB SNC宛てにお送り下さい。

イタリア人の母親をもつ彼女は幼少時代をアーゾロで過ごした。体が弱く、家での療養を強いられることが多かったこともあってか、読書に没頭した。九歳の誕生日に贈られた『アラビアン・ナイト』によって、彼女の心に芽生えたオリエントへの憧れこそが、アラブの砂漠やヨーロッパ人がまだほとんど足を踏み入れたことのなかった地を探検する原動力となった。引退後は、アーゾロで旅行記を執筆しながら余生を過ごし、1993年に亡くなった。

二人目の女性は、十九世紀から二十世紀にかけて生きた舞台女優エレオノーラ・ドゥーゼである。作家ガブリエーレ・ダンヌンツィオの才能を買い、彼と一時恋愛関係にあった女優である。ドゥーゼはアーゾロを何度も訪れた。華やかな世界に身を置き、ヨーロッパ内外を飛び回っていたこの女優の疲れを、この町の風景が癒したことだろう。アメリカツアー中にピッツバーグで亡くなった彼女の遺体はイタリアに運ばれ、生前の彼女の意向でアーゾロに葬られた。町の中心部から少し坂道を下っていくと、ドゥーゼが暮らしたアパートメントがある。大女優にしては質素だが、嫌みのないきれいな赤色の壁が素敵な建物で、正面には彼女に捧げられたダンヌンツィオの詩が掲げられている。内部を見学することはできないが、彼女の部屋の窓からは神々しく美しいグラツパ山が見渡せる。



【ドゥーゼが暮らしたアパートメント】

アーゾロに所縁のある最後の一人はキプロスの女王カテリーナ・コルナーロである。1454年、ヴェネツィア有力な家の娘として生まれ、十四歳になるまでパドヴァの修道院で教育を受けたカテリーナは、「共和国の養女」という、かつてどんな女にも与えられたことのない榮譽をもって、キプロス王ジャコモ二世と結婚する。だが結婚後もカ

テリーナは夫の顔を見ることもなく、四年間ヴェネツィア・リドのサン・ニコロ修道院に留まらなくてはならなかった。地中海の覇権をめぐる、ヴェネツィアとキプロス間の政治の駆け引きが、この政略結婚の裏にあったからだ。1472年によやくキプロスへ赴くものの、次の年、夫ジャコモが死に、カテリーナはお腹に子供を身ごもったまま未亡人として一人残される。ファマグスタの乱と呼ばれるキプロス側の反乱を武力で鎮圧したヴェネツィア共和国は、「養女」カテリーナがキプロスの首長であることを利用してキプロスを植民地化していく。さらに1489年になるとカテリーナに退位と帰国を迫り、代わりに美しい丘の町アーゾロを与えるという名目で、彼女に軟禁生活を課すのである。カテリーナをめぐるヴェネツィア共和国の、こうした冷酷な政治というアルテは、塩野七生著『ルネサンスの女たち』（中央公論社）からも知ることができる。カテリーナはアーゾロで、その生涯の最後の二十一年を過ごした。ジョルジョ・ネーや、ロレンツォ・ロット、ピエトロ・ベンボら、多くの芸術家や文人を招き、楽しく華やかな毎日であったという。ヴェネツィア貴族の若者たちによる愛についての対話を扱ったベンボの『アゾラーニ』は、カテリーナのアーゾロ宮廷に舞台を設定している。塩野さんは『アゾラーニ』を「陳腐としかいいようがない、女の社交界の産物」とおっしゃっているが、実際には必ずしもそう簡単に切り捨ててしまえるものでもなく、イタリア・ルネサンスを知るためには大変重要な著作の一つである。

アーゾロの町の散策が楽しいのは、ここが歴史に置き去りにされたような寂しい場所ではなく、だからといって安っぽい観光地と化してしまっただけでもなく、土地の人の日常の暮らしと他所者をもてなす気持ちが見られるからだろう。ゴミやたばこの吸殻、犬の落し物で汚れた都会から来ると、ここはイタリアなのかと疑うくらいに清潔だ。パドヴァならばしばしば嫌悪感を催すこともあるカフェのテラス席も、アーゾロなら気持ちいい。洒落た食料品屋さんのショーウィンドウには、pinzaというヴェネトの焼き菓子や生パスタが並べられ、おもしろく見とれてしまう。この地方のワインは有名らしく、町にはたくさんのエノテカがあり、店先にはワイングラスを片手に、サラミをつまみながら、地元の

男たちが談笑している姿が見られる。日本人が珍しいのか、彼らは私を見つけると声をかけてくれ、おつまみを分けてくれた。イタリアではどこに行ってもハムやチーズが食べられるとはいえ、やっぱりその土地で作られたものを食べるのが一番おいしい。

大聖堂内にある、ロレンツォ・ロットのフレスコ画も見どころの一つである。家々の優雅なバルコニーの形やカラフルな窓、蔦で覆われた壁を見ながらの散歩は楽しい。カテリーナ・コルナーロやエレオノーラ・ドゥーゼゆかりの品々が納められている博物館の見学が可能なのは、残念ながら、土日のみであるらしい。パドヴァからのバスは平日しかないというのに…。やはり運転免許を取得して、今度はバスの心配をすることなく、気ままに街巡りを楽しみたいと思うのであった。



【よるい戸の色合いが素敵な建物】

(元会館スタッフ)

… 会館 だ よ り …

ポルトガル語無料体験講座

講師: 当館ポルトガル語講師

日時: 10/18(日) 13:00~14:30

参加費: 無料

会場: 日本イタリア京都会館 本校
定員: 20名



ポルトガルの休日

ポルトガル語講座開講を記念して、日本でも数少ないポルトガルギターのユニット“Esquina do Som(エスキーナ・ド・ソン)”をお招きしてティーコンサートを開催します。あわせて「ポルトガル・フェア」として11:00~18:00までポルトガルのめずらしい食材やワインの展示即売会も開催します。

演奏: Esquina do Som

日時: 10/18(日) 15:00~15:45

参加費: 受講生・一般 2,000円

個人維持会員 1,500円

会場: 日本イタリア京都会館 本校
定員: 40名



編集・発行 / (財) 日本イタリア京都会館
〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町4
TEL: (075) 761-4356 / FAX: (075) 761-4357
E-mail: centro@italia.on.arena.ne.jp
URL: <http://www.italia.on.arena.ne.jp>